

最高裁判所長官

大谷直人(おおたになおと)

(昭和 27 年 6 月 23 日生)



略歴

昭和 50 年 東京大学法学部卒業

昭和 50 年 司法修習生

昭和 52 年 判事補任官

その後、東京地裁、最高裁刑事局、裁判所書記官研修所、富山地家裁において勤務

平成元年 最高裁調査官

平成 6 年 東京地裁判事

平成 7 年 司法研修所教官

平成 10 年 最高裁刑事局第一課長兼第三課長

平成 12 年 東京高裁判事

平成 13 年 東京地裁部総括

平成 14 年 最高裁秘書課長兼広報課長

平成 17 年 最高裁刑事局長兼図書館長

平成 19 年 最高裁人事局長

平成 23 年 静岡地裁所長

平成 24 年 最高裁事務総長

平成 26 年 大阪高裁長官

平成 27 年 2 月 17 日 最高裁判所判事

平成 30 年 1 月 9 日 最高裁判所長官

2 年 11 か月間最高裁判事として勤務した後、最高裁長官に任命されました。就任に際しての私の思いについては、「就任談話(平成 30 年 1 月 9 日)」として述べたとおりです。身近な存在として国民からより一層信頼される裁判所の実現、ひいては法の支配を更に揺るぎないものとするために、心を傾けて事件、課題に取り組んでいきたいと思っています。

好きな言葉

「人間は努力する限り迷うものだ」(ゲーテ「ファウスト」)

趣味

そのときの気分に合わせて選んだ音楽をかけながら小説を読むのが、長年変わらない気晴らしの方法です。若い頃から愛読してきた一冊をあげるとすると、ディケンズの「荒涼館」でしょうか。ストーリーの面白さだけでなく、裁判とは、法律家とはという鋭い問いかけも印象的な作品です。